

平成26年度

病害虫情報(第9号) 12月予報



平成26年11月28日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 12月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点 1
【水稲、カンキツ、促成イチゴ、促成トマト、三浦野菜(キャベツ、ダイコン)】
- II 12月の病害虫発生予報の内容とその根拠 5
- III 12月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部11月25日発表3か月予報)及び気象の経過 ... 6

- 農薬を使用する際は、製品に記載されている使用基準を必ず確認するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- 収穫期の作物が近接している場合など、個別に残留基準値の設定状況を考慮する必要がある場合は関係機関にご相談ください。

※ 農薬に関する情報は、平成26年11月19日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 12月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点

【水稲】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発 生 ・ 防 除 時 期				防 除 の ポ イ ン ト
			12月			1月	
			上	中	下	上	
縞葉枯病 (ひこばえ、水田内雑草、水田周辺雑草)	—	—	←——	———	———	———	※イネ縞葉枯病ウイルス媒介虫であるヒメビウンカの越冬場所を減らす目的で次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をうない込む。 ②冬期～春期の畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ越冬貝	—	—	———	———	———	———	※スクミリンゴガイ越冬貝生存率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①貝殻を傷つけることができる細かい耕うん。 ②休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。

【カンキツ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発 生 ・ 防 除 時 期				防 除 の ポ イ ン ト
			12月			1月	
			上	中	下	上	
生 育 (生育調査:足柄地区事務所根府川分室・普通温州)	並		《収穫期》				
ミカンハダニ	やや多	○	———	———	———	———	❖カイガラムシ類の防除は、冬期(厳寒期除く)の防除が効果的である。
カイガラムシ類	—	○	———	———	———	———	

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミカンハダニ カイガラムシ類	マシン油乳剤(95%, 97%, 98%) ★ 農薬使用のポイント ● マシン油乳剤:商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。
-------------------	--

病害虫情報

(H26・No.9) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …………… 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発 生 ・ 防 除 時 期				防 除 の ポ イ ン ト
			12月			1月	
			上	中	下	上	
うどんこ病	多	◎	←——→	←——→	←——→	←——→	うどんこ病に関する注意報を発表予定。
アブラムシ類	やや少	○	←——→	←——→	←——→	←——→	
タバココナジラミ	やや多	○					
アザミウマ類	やや多	○					
ハダニ類	やや多	○					

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

うどんこ病	(予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, -] 500～1,000倍 (予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日 (生育期), 2回] 2,000～4,000倍 (予・治) パンチョTF 顆粒水和剤 [前日, 2回] 2,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍
★ 農薬使用のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ● インプレッション: 果実の汚れが問題となる時期には2,000倍(イチゴ適用)とする。 ● インプレッション(500～1,000倍): 灰色かび病にも適用あり。 ● タフパール: 展着剤ニーズを加用しない。 ● ベルクート(2,000倍): 灰色かび病にも適用あり。 ● パンチョTF: トリフルミゾールとシフルフェナミドを含む混合剤。トリフルミゾールを含む剤にはトリフミン等がある。 	
アブラムシ類 コナジラミ類 タバココナジラミ	モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 2回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍、コナジラミ類: 2,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300倍
アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 2回] 2,000倍 カスケード乳剤 [前日, 3回] ミカンキイロアザミウマ: 4,000倍
★ 農薬使用のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ● カスケード: ハスモンヨトウにも適用あり。 	
ハダニ類	マイトコーネフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

ミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響

- ▶ 影響のある剤: モスピラン(影響あり)、サンクリスタル(影響あり)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合: 1作1回
 - その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合: 1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤の場合: 1作1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合: 1作2回

病害虫情報

(H26・No.9) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ———— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …………… 感染時期 ←——→ 防除適期

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				防除のポイント
			12月			1月	
			上	中	下	上	
灰色かび病	—	○		(定植)			
アブラムシ類	—	○		(定植)			❖CMV等(モザイク病)を媒介。
タバココナジラミ	—	○					❖TYLCV(黄化葉巻病)を媒介。
アザミウマ類	—	○					❖TSWV(黄化えそ病)を媒介。
ハモグリバエ類	—	○					

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

灰色かび病	(予) ポトキラー水和剤 [発病前～発病初期, -:ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000～1,500倍 等
アブラムシ類 コナジラミ類 タバココナジラミ アザミウマ類 ハモグリバエ類	<p>【定植時:植穴施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類、トマトハモグリバエ:1g/株 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類、マメハモグリバエ:1～2g/株、 トマトハモグリバエ:2g/株</p> <p>【定植後:散布】 サンマイトフロアブル [前日,2回] コナジラミ類:1,000～1,500倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,500倍 ハモグリバエ類:2,500～5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等</p> <p>★ 農薬使用のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サンマイト(1,500倍):トマトサビダニにも適用あり。 ● サンクリスタル(300～600倍):トマトサビダニにも適用あり。

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:ダントツ(20日)、ディアナ(1日)

薬剤耐性菌の発生を防ぐために ※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報 (H26・No.9) …… 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

【キャベツ】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発 生 ・ 防 除 時 期				防 除 の ポ イ ン ト
			12月			1月	
			上	中	下	上	
菌核病	やや少	○		←→			❖ 発病株は早期に処分。 ❖ 雨で病原菌胞子が飛散するので、強い雨の後には薬散する。 ❖ 薬剤は株元にかかるように散布する。

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

菌核病	(予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 1,000倍 (予・治) カンタスドライフロアブル [7日,2回] 1,500倍	等
-----	--	---

【ダイコン】

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[発生・防除時期] ——— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←——→ 防除適期

病 害 虫 名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発 生 ・ 防 除 時 期				防 除 の ポ イ ン ト
			12月			1月	
			上	中	下	上	
黒斑細菌病	並	○		←→		←→	
白さび病	並	○					
アブラムシ類	やや多	○		←→			

今月の防除

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

黒斑細菌病	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [14日,3回] 1,000倍	等
	★ 農薬使用のポイント ・ Zボルドー:薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。軟腐病にも適用あり。 ・ カセット:軟腐病にも適用あり。	
白さび病	(予・治) アミスター20フロアブル [14日,3回] 2,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [3日,3回] 2,000倍	等
アブラムシ類	アドマイヤーフロアブル [14日,2回] 4,000倍 ベストガード水溶剤 [7日,3回] 1,000~2,000倍	等

病害虫情報

(H26・No.9) …………… 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 12月の病害虫発生予報の内容とその根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや多	1) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 2) 10月の巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
促成イチゴ	うどんこ病	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年並か少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来は、平年より少ない。(—) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	並 やや多	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年並(±)、タバココナジラミの発生が平年よりやや多い(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
三浦半島地区野菜				
キャベツ	黒腐病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	菌核病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
ダイコン	黒斑細菌病	少	並	1) 巡回調査では、発病はみられず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	白さび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来は、平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ナモグリバエ	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
アブラナ科野菜	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、キャベツでは発生が平年並(±)、ダイコンでは発生が平年よりやや少ない(—) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(—) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (—): 少発要因

Ⅲ 12月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部11月25日発表3か月予報)及び気象の経過

〈天 気〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	40%	40%	20%

* 11月20日発表1か月予報による

〈気象の経過〉[観測地 横浜地方気象台]

11月第5半旬まで

気温は1～2,5半旬は平年より高く、3半旬は平年並、4半旬は平年より低かった。

降水量は、1～3,5半旬は平年より少なく、4半旬は平年並だった。

日照時間は、1～2半旬は平年より少なく、3半旬は平年より多く、4～5半旬は平年並だった。

